

2018年度

# 宮城学院女子大学大学院 学生募集要項

人文科学研究科  
健康栄養学研究科



宮城学院女子大学

## 宮城学院建学の精神と沿革

「開かれた聖書とその上に舞いおる鳩とを宮城野萩の輪が囲む」(The open Bible with a dove in a wreath of bush-clover) 校章が示すごとく、建学の精神は福音主義キリスト教の信仰に基づいた教育を行うことにより、神を中心とした人生観をもって真理を追究し、すべての人と社会に対して愛と奉仕の業を行い、人類の福祉と世界の平和に貢献しうる女性の育成を目的としている。

- 1885年12月 日本基督一致教会牧師押川方義は、東京で「合衆国改革派教会」宣教師グリーン、モール、ホーイの三人と会見し、仙台に神学校及び女学校設立の必要性を説いた。
- 1886年1月 グリーン、モール、ホーイの三人によるミッション会議により、仙台に神学校及び女学校の設立を決定し、「合衆国改革派教会」外国伝道局に具申した。
- 5月 仙台神学校(現在の東北学院)創立(校長押川方義)
- 7月 E. R. プールボー、M. B. オールトが来日
- 9月 押川方義、モール、ホーイ、プールボー、オールトらによって宮城女学校創立(校長プールボー)。東二番丁51番地田辺繁久別邸において授業を開始
- 1889年4月 東三番丁162番地に竣工した新校舎に移転
- 1911年4月 高等女学校としての認可を受ける
- 1941年2月 財団法人としての認可を受ける
- 1946年6月 専門学校設置認可(育児科、国語科、外国語(英語)科、音楽科を設置)
- 7月 宮城高等女学校を、宮城学院高等女学校と改称
- 1947年4月 宮城学院中学校併設
- 1948年4月 宮城学院高等学校設置
- 1949年2月 宮城学院女子大学学芸学部設置認可(英文学科、音楽科)
- 1950年3月 宮城学院女子短期大学設置認可(家政科、国文科)
- 1955年1月 短期大学保育科設置認可
- 1956年3月 短期大学附属幼稚園設置認可
- 1959年1月 大学学芸学部家政学科設置認可
- 1964年1月 大学学芸学部日本文学科、及び短期大学に教養科設置認可
- 1980年10月 青葉区桜ヶ丘九丁目1番1号に総合移転
- 1986年10月 創立百周年記念式典を挙げる
- 1988年12月 短期大学国際文化科設置認可
- 1995年4月 短期大学教養科を改組し、大学学芸学部人間文化学科設置  
大学院人文科学研究科設置
- 1999年4月 大学院人文科学研究科人間文化学専攻設置
- 10月 宮城学院女子大学、短期大学設置50周年記念式典挙げる
- 2000年4月 大学学芸学部食品栄養学科、生活文化学科、発達臨床学科、国際文化学科開設
- 2005年4月 大学院人文科学研究科生活文化デザイン専攻設置
- 2006年10月 創立120周年記念式典を挙げる
- 2007年4月 大学学芸学部心理行動科学科、児童教育学科開設
- 2008年4月 大学院健康栄養学研究科設置。大学院健康栄養学研究科健康栄養学専攻を設置
- 2009年4月 大学学芸学部生活文化学科から生活文化デザイン学科に名称変更  
大学院人文科学研究科生活文化デザイン専攻から生活文化デザイン学専攻に名称変更
- 2016年4月 大学学芸学部10学科から、4学部9学科へと変更  
現代ビジネス学部：現代ビジネス学科(新設)  
教育学部：教育学科(幼児教育専攻、児童教育専攻、健康教育専攻)  
生活科学部：食品栄養学科、生活文化デザイン学科  
学芸学部：日本文学科、英文学科、人間文化学科、心理行動科学科、音楽科

2018 年度  
宮城学院女子大学大学院人文科学研究科・健康栄養学研究科  
修士課程学生募集要項

**募集内容**

1. 専攻及び入学定員

人文科学研究科

英 語・英米文学専攻 4 名

日本語・日本文学専攻 4 名

人間文化学専攻 4 名

生活文化デザイン学専攻 4 名

健康栄養学研究科

健康栄養学専攻 4 名

2. 出願資格

次のいずれかに該当する女子

- (1) 学士の学位を有する者、及び 2018 年 3 月取得見込の者
- (2) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者、及び 2018 年 3 月修了見込の者
- (3) 文部科学大臣の指定した者
- (4) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると本大学院が認めた者  
(健康栄養学専攻出願の場合は管理栄養士免許あるいは、養護教諭免許を有する者等)

3. 出願期間及び出願方法

(1) 出願期間

第 1 回 2017 年 10 月 13 日(金)～ 10 月 20 日(金) 〈必着〉

第 2 回 2018 年 2 月 13 日(火)～ 2 月 20 日(火) 〈必着〉

第 1 回、第 2 回ともに「大学院人文科学研究科入学願書在中」または「大学院健康栄養学研究科入学願書在中」と封筒表に朱書し、必ず書留速達で郵送すること（窓口では取扱わない）

(2) 出 願 先

宮城学院女子大学 教育研究支援グループ入試センター

〒981-8557 仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目 1 番 1 号

#### 4. 出願書類

①入学志願票	本学所定の用紙（A票）、受験票（B票）
②写真（縦4cm×横3cm 2枚）	白黒・カラーとも可。出願日前3ヶ月以内に撮影し、正面を向いて上半身無帽のもの。写真裏面に志願専攻名と氏名を記入し、志願票（A票）、受験票（B票）に貼付すること。 ※試験時間中に眼鏡をかける者は、眼鏡をかけて撮影のこと
③最終大学（学校）の成績証明書	出願日前3ヶ月以内に作成され、発行元が厳封したもの
④連絡カード	本学所定の用紙に住所および氏名等を明記のこと
⑤研究計画書	本学所定の用紙（その1、その2）に記入すること
⑥最終大学（学校）の卒業証明書 または卒業見込証明書	卒業見込証明書の場合には、入学時に卒業証明書をあらためて1部提出すること。ただし、宮城学院女子大学を2018年3月卒業見込の者は、入学時にあらためて提出する必要はありません
⑦外国人の場合に提出する書類 （外国籍者のみ）	ア. 国内居住者……在留カードの写し イ. 国外居住者……身分証明書（当該外国公館または当該外国政府機関発行の身分を証明する文書）※

※ 国外居住者については、入学後にあらためて在留カードの写しを提出すること。

なお、外国人の方は入学後他の学生と同じ条件で所定の課程を修めるものとします。従って、講義等を理解することのできる日本語能力を十分身につけている必要があります。

（注 1）あらかじめ志望する専攻の教員の研究室を訪問するなど、大学院における教育内容・研究内容などの情報を得てから出願するようにしてください。

（注 2）本学に入学を志願する方で、身体に障がいがあり、受験上及び修学上の特別な配慮（拡大文字・面接時の配慮等）を希望する場合は、出願前にあらかじめ本学入試センターに連絡し、相談をしてください。

（注 3）学部卒業時に卒業論文を提出した方はその写しを提出してください。

#### 5. 入学検定料

30,000円

本学所定の振込用紙を使用し、下記の期間内に銀行窓口から「電信扱」で振込んでください。ATM（現金自動預け払い機）からの振込みはできません。この際、「取扱銀行収納印」が押されていることを確認してください。

第1回 2017年10月6日(金)～10月20日(金)

第2回 2018年2月6日(火)～2月20日(火)

（注意）いったん納入された検定料及び提出された書類は事由のいかんにかかわらず返還いたしません

#### 6. 試験日時

第1回 2017年10月28日(土)

第2回 2018年2月28日(水)

受付時間 8時50分～9時20分

試験時間 9時30分～15時00分（昼休み時間を除く）

## 7. 試験内容並びに試験時間

### 〈人文科学研究科〉

専攻	試験科目	試験時間
英語・ 英米文学専攻	専門科目（英語学・英米文学・英米文化のうち1科目選択）	100分
	外国語（英語）	100分
	研究計画に係る口述試験	
日本語・ 日本文学専攻	専門科目（専門概説 方法論・文学史）	100分
	外国語（英語）	50分
	研究計画に係る口述試験	
人間文化学専攻	専門科目（小論文）	100分
	外国語（英語）	50分
	研究計画に係る口述試験	
生活文化 デザイン学専攻	専門科目（小論文）	100分
	外国語（英語）	50分
	研究計画に係る口述試験	

(注 1) 本学英文学科在学学生が英語・英米文学専攻を志願する場合、3年次開設の専門科目の平均点が80点以上であれば、専門科目（英語学・英米文学・英米文化）の受験を免除します。

本学英文学科の過年度卒業生の場合、3年次及び4年次の専門科目の平均点が80点以上であれば、専門科目の受験を免除します。

希望者は、学生支援グループ教務センターにその旨を申し出て平均点を書き添えた成績証明書を提出してください。

(注 2) 各専攻の外国語（英語）試験には、辞書の持込みを許可します（電子辞書は不可）。

但し、英和辞典一冊とします。

### 〈健康栄養学研究科〉

専攻	試験科目	試験時間
健康栄養学専攻	専門科目（2科目選択）	120分
	外国語（英語）	50分

(注 1) 健康栄養学専攻の専門試験については、「臨床栄養学」、「基礎・応用栄養学」、「生化学（免疫学を含む）」、「学校保健」、「教育心理学」、「食品化学」、「栄養マネジメント論」、「給食経営管理論」より2科目選択とします。

なお、社会人経験者は、専門科目（2科目選択）、外国語（英語）の中から1科目を研究計画に関する「小論文」（60分）に代えることができます。

(注 2) 外国語（英語）試験には、辞書の持込みを許可します（電子辞書は不可）。

但し、英和辞典一冊とします。

(注 3) 健康栄養学専攻は、試験終了後に面接を行います。

## 8. 試験場 本学

## 9. 合格発表

第1回 2017年10月31日(火) 15:30

第2回 2018年3月3日(土) 15:30

合格者の発表は、本学構内に掲示をします。上記日程は予定です。

電話による問い合わせには、一切応じません。

## 10. 合格通知

合格者には発表当日に「合格証」及び「入学手続要項」を郵送します。

## 11. 入学手続

第1回：入学金の納付 2017年11月2日(木)～11月8日(水)

その他入学時納付金の納付 2018年3月5日(月)～3月9日(金)

第2回：入学時納付金全額の納付 2018年3月5日(月)～3月9日(金)

合格者は、「入学手続要項」により、上記手続期間内に所定の手続を完了してください。

入学手続を完了した後で入学辞退を希望する場合は、入学金を除く納付金を「入学辞退願書・授業料等返還願書」の申請にもとづき返還します。なお、申請期限は2018年3月31日(土)必着とします。

## 12. 入学金及び授業料等

[参考] 2018年度は未定ですが、2017年度入学生の初年度納付金は下表のとおりです。

(単位：円)

科 目		英語・英米文学専攻		日本語・日本文学専攻		人間文化学専攻		生活文化デザイン学専攻		健康栄養学専攻	
		入学時 納付金	後 期 納付金	入学時 納付金	後 期 納付金	入学時 納付金	後 期 納付金	入学時 納付金	後 期 納付金	入学時 納付金	後 期 納付金
学 校 納 付 金	入学金 (一 般)	100,000		100,000		100,000		100,000		100,000	
	入学金 (本学卒業生)	50,000		50,000		50,000		50,000		50,000	
	授 業 料	259,500	259,500	259,500	259,500	259,500	259,500	313,000	313,000	327,500	327,500
	施設設備資金	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	60,000	69,500	69,500	70,000	70,000
	循環器等検査料	4,000		4,000		4,000		4,000		4,000	
	小 計 (一 般)	423,500	319,500	423,500	319,500	423,500	319,500	486,500	382,500	501,500	397,500
	小 計 (本学卒業生)	373,500	319,500	373,500	319,500	373,500	319,500	436,500	382,500	451,500	397,500
そ の 他 納 付 金	大学後援会費	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
	学 会 費	2,500		3,000				1,500			
	学生災害掛金	1,750		1,750		1,750		1,750		1,750	
	小 計	9,250	5,000	9,750	5,000	6,750	5,000	8,250	5,000	6,750	5,000
合 計 (一 般)		432,750	324,500	433,250	324,500	430,250	324,500	494,750	387,500	508,250	402,500
合 計 (本学卒業生)		382,750	324,500	383,250	324,500	380,250	324,500	444,750	387,500	458,250	402,500

注 宮城学院女子大学を卒業した者及び2018年3月卒業見込の者については、入学金を半額免除します。

## ◆ アドミッションポリシー ◆

### 人文科学研究科

#### <英語・英米文学専攻>

英語・英米文学専攻の目的は、英語学、英米文学および英米文化についてより深い高度な専門的知識を身につけ、国際社会のさまざまな領域において積極的に学術的・文化的交流を行う意欲的な人材を育成することにあります。

#### <日本語・日本文学専攻>

日本文化の根幹である日本語と日本文学について深く学び、学問的態度でそれらの本質をきわめようとする意欲的な学生を求めます。

また、国内外の日本語学習者の増加に対応するために、日本語教育学を幅広く学ぼうという学生を待っています。

#### <人間文化学専攻>

人間文化学専攻の目的は、伝統的な学問の意義を踏まえつつ、既存の学問の枠組みを越えて、人類の活動を<人間><歴史><社会>の側面から探究する担い手を育成することにあります。

それ故、哲学、宗教学、言語学、心理学などの<人間系>、西洋史学、東洋史学、日本史学および東西の美術史学などの<歴史系>、そして、社会学、地理学、経済学などの<社会系>、さらにそれらを領域横断的に考究しようと志す人材を期待します。

#### <生活文化デザイン学専攻>

人間と人間を取り巻く文化・環境の関わりを総合的に分析し、新たな時代の生活文化と生活環境の提案・構築（デザイン）のために、教育研究や専門的視点を持った実践に取り組むことを目指す意欲のある学生を求めます。

### 健康栄養学研究科

#### <健康栄養学専攻>

健康栄養学研究科は、次のような能力、意欲、目的意識などをもつ者を広く受け入れます。

- 1) 食生活に起因する多様な健康課題の解決に向けて、それぞれの視点から研究に取り組もうとする意欲ある人
- 2) チーム医療の一員として治療栄養の実践をめざす人。
- 3) 食による疾病の予防や改善の視点をもった製品開発をめざす人。
- 4) 栄養・食の課題の解決に向けて、教育力のある食生活の支援者や栄養教諭をめざす人。
- 5) 高度な専門的知識をもち、子どもたちの発達や学びに貢献できる養護教諭をめざす人。



## ◆ 専攻内容 ◆

### 人文科学研究科

#### 〈英語・英米文学専攻〉

1995年宮城学院女子大学大学院（修士課程）創設と同時に人文科学研究科の一専攻として設置された本専攻は、本大学院のなかでももっとも伝統ある専攻のひとつである。

本専攻には、英語学、英米文学、英米文化という3つの専門領域があり、それぞれが補完的な役割を果たしている。国際共通語としての英語を学びながら、言語・文学・文化への理解を深める。

英語学では、統語論・第二言語獲得論・児童英語教育等の分野を通じて英語という言語の特質を探る。

英米文学では、社会的・歴史的背景と関連させて英米を中心にした英語圏の文学作品を学ぶことによって、英語が生み出してきた文化の本質に迫る。英米文化ではさらに対象を広げ、イギリスを中心とするヨーロッパ文化や多様なアメリカ文化の諸相についての考察を深める。

日本語教育学や外国人教員による英語表現・運用能力育成をはかる講義も重要なカリキュラムである。

海外留学を希望する方には、幾つかの留学制度が用意されている。中学校や高等学校の英語教員や研究者等をめざす方だけでなく、しばらく大学を離れていたがもう一度学びたいという方々も大いに歓迎する。

#### 【ディプロマポリシー】

本専攻で学ぶ院生には、英語学、英米文学および英米文化についての講義と演習科目を通じて幅広い知識と豊かな教養を身につけるだけでなく、基盤となる英語力を確実なものにすること、さらに各自の専門領域と研究課題をより深く学問的に追究することを求めている。所定の単位を修得し研究指導を受けて修士論文を作成、論文審査及び最終試験に合格することによって課程修了となる。

#### 【カリキュラムポリシー】

本専攻の講義科目としては「英語学特殊講義」「英米文学特殊講義」「英米文化論特殊講義」の3つがあり、それぞれに演習科目が配置されている。また英語運用能力向上のための科目として、「英語アカデミックライティング」「英語コミュニケーション」がある。1年次では、英語学、英米文学、英米文化から2分野以上を履修することにより、高度な専門的知識のみならず幅広い知識を得ることが出来る。2年次では、院生各自の専門領域に関連した内容の講義および演習科目を履修することにより、学問的理解を深め、修士論文演習では論文作成に関して個別指導を受ける。本専攻修了者には、中学校教諭・高等学校教諭専修免許状（英語）が与えられる。

#### 取得可能な免許状の種類

中学校教諭専修免許状（英語）

高等学校教諭専修免許状（英語）

※その他に日本語教員養成課程を設置し本学独自の証明書を発行している。

## 〈日本語・日本文学専攻〉

現代は交通や情報化の進展によりますます国際化（グローバル化）が進んでいるが、そのような時代だからこそ、むしろ自文化を十分に理解し、それを基盤として海外に発信し交流する能力が求められている。すなわち日本で言えば、日本語や日本文学・日本文化に対する専門知識を有して、国語教育や日本語教育に貢献できる人材、また世界各地での日本への関心に対して豊かな学識で応えられる人材を育成することが、社会的に喫緊の課題となっている。

日本語・日本文学専攻は、そうした社会的要請に対応するため、専門性の高いスタッフによる個別的な指導を中心に据え、各分野との関係を図りながら、一人一人の大学院生の要求に添う専門性の獲得、実践的能力の修得を柔軟に実行している点に大きな特徴がある。「日本語教員養成課程」も併設しており、大学院に入学してから、自分の専門分野を研究しながら新たに日本語教員の資格を取得できるようになっている。

研究指導の他に、大学院生の課程修了後のことを考え、国語教師を目指す学生には教職センターと連携し中学校や高等学校での非常勤講師の職を、また将来日本語教師を目指す学生には日本語学校での非常勤講師として働けるようサポートしている。

このように日本語・日本文学・日本文化・日本語教育のそれぞれの分野について、高度な広い研究・教育を提供できる特徴を活かして、本専攻では専門的な人材を育成し、また幅広く社会に貢献する人材を養成することを目的にしている。

### 【ディプロマポリシー】

日本語・日本文学専攻では、日本語と日本文学並びに日本語教育・日本文化学の高度な専門性の獲得を目標としている。そのため、1年次、2年次にわたって特殊講義と演習科目の中から28単位以上を修得する。その中には特殊講義4単位以上、演習4単位以上を含まなければならないが、8単位を上限として他専攻の特殊講義、特殊研究を修得することができる。さらに2年次において修士論文演習Ⅰ・Ⅱを受講して合計32単位以上を履修し、修士論文を提出し、論文審査及び最終試験に合格した者に、修士（日本文学）の学位を授与する。

### 【カリキュラムポリシー】

日本語・日本文学専攻は、日本語・日本文学の専門科目を基軸としているが、そのほかに日本語教育と日本文化学の科目の充実を図り、多様な学術的要求に対応できるカリキュラムを形成している。また日本語や日本文学の成立にとって重大な契機である中国文学の専門的学習もできるなど、日本語や日本文学に関わるあらゆる専門的期待に応えうるカリキュラムとなっている。「修士論文演習」を新設したことでさらにきめ細かな指導ができる体制となった。なお本教育課程は、高等学校教諭・中学校教諭専修免許状、及び日本語教育養成課程単位修得証明書の資格修得に対応している。

### 取得可能な免許状の種類

中学校教諭専修免許状（国語）

高等学校教諭専修免許状（国語）

※その他に日本語教員養成課程を設置し本学独自の証明書を発行している。

## 〈人間文化学専攻〉

今日の「時代」や「社会」は錯綜をきわめ、その特質を一言で表現することが困難である。その中で「人間」の営みもまた然りであろう。いかなる問題も、これを俎上にのせて分析しようとするとき、その歴史的、社会的な網の目を意識せざるを得ない。人々の意思や行為はそうした事情の負荷されたものであることが解ろう。従来のカテゴリーに収めることのできない学術分野が要求されているとも言える。

このような認識のもと、本専攻では、人文科学と社会科学とを前提としつつも、既存の学問の枠組みを越えて、幅広い領域の履修が可能になるよう教育課程が編成されている。〈人間系〉にカテゴライズされる哲学、宗教学、言語学、心理学、〈歴史系〉の西洋史学、東洋史学、日本史学および東西の美術史学、そして、〈社会系〉の領域である社会学、地理学、経済学などの専門性を深めつつ、領域横断的なカリキュラム構成になっている。

本専攻においては、このような、学問的な専門性と領域横断的な学際性とが大きな特徴である。

### 【ディプロマポリシー】

本専攻は、院生自の専攻領域から課題に迫るとともに、関連領域の成果も摂取しながら研究課題に取り組むことができる学究環境を用意している。そうした環境のもと、学生には、専門および関連領域の教員からの指導を受け、修士論文として研究成果をまとめることを求めている。所定の単位を修得し、修士論文審査および最終試験に合格することによって修士の学位が授与される。

### 【カリキュラムポリシー】

本専攻では、〈人間系〉、〈歴史系〉および〈社会系〉それぞれの講義科目を置くほか、演習に力点を置いたカリキュラム構成をとっている。院生各自の専攻分野だけでなく、関連領域の方法も学び、より幅広い視野から研究課題に取り組めるよう配慮されている。特に1年生では、「総合コース」を必修としているが、この科目は先の3つの「系」から複数の教員がそれぞれの研究領域を背景として、様々な成果を教授することを目的としている。演習科目は専任教員すべてが開講し、院生は複数の演習の受講が可能である。

### 取得可能な免許状

- 中学校教諭専修免許状（社会）
- 高等学校教諭専修免許状（地理・歴史）
- 高等学校教諭専修免許状（公民）
- 臨床発達心理士

※その他に日本語教員養成課程を設置し本学独自の証明書を発行している。

## 〈生活文化デザイン学専攻〉

「生活文化」と「生活環境の構築（デザイン）」の両面から、広く生活に関する研究・指導を行い、社会のニーズに柔軟に対応できる実践的な能力を養成する。以下の二つの領域から関心に応じてカリキュラムを選択し、専門性を深めることができる。

### 〈生活文化領域〉

流通経済学、家族社会学、住宅文化史、服飾文化史などの観点から、生活文化に対する人文科学・社会科学的分析を行う専門能力を養成する。

### 〈生活環境領域〉

被服科学、住居環境学、建築計画学、建築設計論などの観点に基づいて、生活環境を構築するための専門知識と専門技能を養成する。

修了後は、上記のような学習・研究の成果を生かし、住宅・設備・インテリア関連の専門職、家庭科教員、公務員等、人間生活全般に関わる職場で、実践的に活躍して欲しいと考えている。

### 【ディプロマポリシー】

本専攻では、広範な生活文化デザイン領域の学際的知見を基礎とし、以下のような能力を身につけ、所定の単位を取得し、専攻で定める水準を満たした修士論文を作成した学生に修士(生活文化デザイン学)の学位を授与する。

1. 生活文化に関わる専門領域を、広範な生活文化諸領域との総合的・有機的連関のなかで捉える能力を身につけていること。
2. 専門知識をさらに発展させるために必要な情報収集・分析、プレゼンテーション能力を身につけていること。
3. 専修免許を有した教員、建築士などの専門家として、次世代に向けた高度な生活文化と生活環境の提案・構築（デザイン）に実践的に取り組む能力を身につけていること。

### 【カリキュラムポリシー】

本専攻では、広範な生活文化領域に関する「生活文化論」（流通経済学、家族社会学、住宅文化史、服飾文化史）及び「生活環境論」（被服科学、住居環境学、建築計画学、建築設計論、建築材料論）の各特殊講義科目及び演習科目が設置されており、多岐にわたる生活文化分野を視野にいれて専門領域を深く研究できるようにカリキュラムが構成されている。また、専門領域を高度な実践にいかすために必要な「画像分析」「建築デザイン実務」科目が設置され、さらに、本専攻での教育研究の集大成であり修士課程修了に必要な修士論文作成のために、修士論文演習が設置されている。

### 取得可能な免許状等の種類

中学校教諭専修免許状（家庭）

高等学校教諭専修免許状（家庭）

一級建築士受験資格（実務経験1年）

一級建築士・実務経験2年を要する指定科目確認を受けた大学（学校教育法第83条）を卒業した者のうち、本大学院においてインターンシップ科目およびインターンシップ関連科目として公益財団法人建築技術教育普及センターに認められた所定科目の単位を修得することにより、建築士試験における実務経験1年とすることができる。

## 健康栄養学研究科

### 〈健康栄養学専攻〉

近年、日本では少子高齢化、人々の食習慣の変化、食環境の変化が顕著である。これに伴い食生活を通して生じる健康問題も多岐にわたるようになった。中高年齢層における生活習慣病の増加、若年齢層の食生活を営む力の低下、幼児・学童における肥満や食物アレルギー、若年女性のやせの問題などはその一例である。本専攻は、このような食生活に起因する多様な健康課題の解決に向けて、生活者の視点と、研究的な視点にたつて対処できる人材の養成を図ることを教育目標としている。

本専攻は、基礎となる「食品栄養学科」の教育内容を特化・発展させたものであり、生活者としての視点をもちつつ、①医療の場でチーム医療の一員として参画できる臨床栄養専門家、②基礎栄養ひいては生命現象に関する学識と研究的視点を持ち、健康に関する諸問題を解決する能力をもつ人材、③研究的視野をもって食教育に携わり、地域住民もしくは児童・生徒の健康を増進する人材、④小、中、高等学校で研究的視野をもって健康教育を実践し、児童・生徒の健康を推進する人材を養成することを目的としている。

#### 【ディプロマポリシー】

本研究科は、次のような学修成果をあげ、所定の単位を修得した者に以下を授与する。

1. 健康・栄養に関する高度な学識と研究的な視点にたつた実践力を修得した者に、修士(健康栄養学)の学位を授与する。
2. 子どもの心身の発達を支援する養護教諭の教育実践研究について学修した者に、養護教諭専修免許を認定する。
3. 食教育を通して子どもの健康を支援する栄養教諭の教育実践研究について学修した者に、栄養教諭専修免許を認定する。

#### 【カリキュラムポリシー】

本研究科は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学修成果を達成するため、次のようなカリキュラムを編成している。

1. 専門分野の学識と総合的な視野の両者の調和を図るために、1年次前期の導入として「健康科学基礎講義」を配置し、教育内容の全体像を視野に入れる。
2. 1年次前後期で臨床栄養学、基礎栄養学、実践栄養学、食・健康教育等の各分野の特殊講義、演習を履修しつつ、修士論文の基礎を培う。なお、臨床栄養学分野については臨床栄養師に関する科目を配置し、資格取得をめざす。
3. 2年次前期には「総合演習」で修士論文の中間報告を行い、多分野の教員からの助言を得た上で、論文を仕上げる。

#### 取得可能な免許状等の種類

養護教諭専修免許状

栄養教諭専修免許状

# 長期履修学生制度について

## 1. 制度の概要

大学院修士課程の入学から修了までの標準修業年限は、2年と本学大学院学則で定められていますが、職業を有している等の理由で、標準修業年限を超えて一定の期間（在学年数は、4年を超えることができません）にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する場合は、長期履修学生として申請することができます。

なお、許可された長期履修期間は、在学途中に1回に限り、短縮または延長することができます。ただし、短縮する場合の修業年限は3年を下回ることにはできません。長期履修を選択すると修了年限が3年または4年になります。

## 2. 対象

職業を有している等の事情により長期履修学生として申請できる者は、原則として以下に該当する者となります。

- (1) 企業等の常勤の職員または自ら事業を行っている者
- (2) 出産・育児・介護等を行う必要がある者
- (3) その他、委員会において適当と認められる者

## 3. 申請手続き

長期履修学生となることを希望する者は、以下に定める書類を添えて、入学願書提出の時期および入学手続き前の定められた時に申請してください。

- (1) 長期履修学生申請書（様式第1号-1）
- (2) 在職証明書または就業が確認できる書類
- (3) その他、長期履修学生制度を申請する理由が確認できる書類

## 4. 通知について

通知の時期は、原則として合格発表時とします。

## 5. 申請書類提出先および問い合わせ先

〒981-8557 仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目1番1号

宮城学院女子大学 教育研究支援グループ 庶務担当 TEL：022-279-4698

補足：長期履修制度を利用希望の方で、**未就園児**の授業時間内の託児を希望する方は、入学手続き後にご相談ください。

## 授業科目、単位数および履修方法

(2017 年度) ※参考

人文科学研究科

英語・英米文学専攻

科 目 名	開設 年次	単 位 数		履 修 方 法
		必修	選択	
英語学特殊講義Ⅰ(統語論・意味論)	1・2		2	<p>英語学特殊講義、英米文学特殊講義、英米文化論特殊講義の中から専門分野とする特殊講義計4単位、専門分野の演習科目計4単位、修士論文演習Ⅰ・Ⅱ計4単位、合計12単位を修得すること。その他の特殊講義・演習から16単位以上を修得し、合わせて28単位以上を修得すること。28単位には、8単位を上限として、他専攻の特殊講義および特殊研究を含めることができる。</p> <p>英語アカデミックライティングⅠ・Ⅱ、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱから任意に4単位以上を修得し、合計で32単位以上を修得すること。</p> <p>1年次には、英語学、英米文学、英米文化の2分野以上を含むように履修すること。研究指導を受けて修士論文を作成し、論文審査及び最終試験に合格すること。</p>
英語学特殊講義Ⅱ(統語論・意味論)	1・2		2	
英語学特殊講義Ⅲ(心理言語学)	1・2		2	
英語学特殊講義Ⅳ(心理言語学)	1・2		2	
英語学特殊講義Ⅴ(児童英語教育)	1・2		2	
英語学特殊講義Ⅵ(児童英語教育)	1・2		2	
英米文学特殊講義Ⅰ(小説)	1・2		2	
英米文学特殊講義Ⅱ(小説)	1・2		2	
英米文学特殊講義Ⅲ(戯曲・詩歌)	1・2		2	
英米文学特殊講義Ⅳ(戯曲・詩歌)	1・2		2	
英米文化論特殊講義Ⅰ(文化論)	1・2		2	
英米文化論特殊講義Ⅱ(文化論)	1・2		2	
英米文化論特殊講義Ⅲ(文化史)	1・2		2	
英米文化論特殊講義Ⅳ(文化史)	1・2		2	
英語学演習Ⅰ(統語論・意味論)	1・2		2	
英語学演習Ⅱ(統語論・意味論)	1・2		2	
英語学演習Ⅲ(心理言語学)	1・2		2	
英語学演習Ⅳ(心理言語学)	1・2		2	
英語学演習Ⅴ(児童英語教育)	1・2		2	
英語学演習Ⅵ(児童英語教育)	1・2		2	
英文学演習Ⅰ	1・2		2	
英文学演習Ⅱ	1・2		2	
米文学演習Ⅰ	1・2		2	
米文学演習Ⅱ	1・2		2	

科 目 名	開設 年次	単 位 数		履 修 方 法
		必修	選択	
文化論演習Ⅰ	1・2		2	
文化論演習Ⅱ	1・2		2	
文化交流論演習Ⅰ	1・2		2	
文化交流論演習Ⅱ	1・2		2	
英語アカデミックライティングⅠ	1・2		2	
英語アカデミックライティングⅡ	1・2		2	
英語コミュニケーションⅠ	1・2		2	
英語コミュニケーションⅡ	1・2		2	
修士論文演習Ⅰ	2	2		
修士論文演習Ⅱ	2	2		



日本語・日本文学専攻

科 目 名	開設 年次	単 位 数		履 修 方 法
		必修	選択	
日本語教育学特殊講義Ⅰ	1・2		2	<p>特殊講義、演習から任意に28単位以上を修得すること。ただし、中には特殊講義4単位以上、演習4単位以上を含むこと。28単位の内、8単位を上限として、他専攻の特殊講義及び特殊研究から修得することができる。</p> <p>2年次において、修士論文演習Ⅰ・Ⅱを受講して、合計で32単位以上を履修すること。</p> <p>研究指導を受けて修士論文を作成し、論文審査及び最終試験に合格すること。</p>
日本語教育学特殊講義Ⅱ	1・2		2	
日本語学特殊講義Ⅰ	1・2		2	
日本語学特殊講義Ⅱ	1・2		2	
日本古典文学特殊講義Ⅰ	1・2		2	
日本古典文学特殊講義Ⅱ	1・2		2	
日本文化学特殊講義Ⅰ	1・2		2	
日本文化学特殊講義Ⅱ	1・2		2	
日本近代文学特殊講義Ⅰ	1・2		2	
日本近代文学特殊講義Ⅱ	1・2		2	
中国文学特殊講義Ⅰ	1・2		2	
中国文学特殊講義Ⅱ	1・2		2	
日本語教育学演習Ⅰ	1・2		2	
日本語教育学演習Ⅱ	1・2		2	
日本語学演習Ⅰ	1・2		2	
日本語学演習Ⅱ	1・2		2	
日本古典文学演習Ⅰ	1・2		2	
日本古典文学演習Ⅱ	1・2		2	
日本文化学演習Ⅰ	1・2		2	
日本文化学演習Ⅱ	1・2		2	
日本近代文学演習Ⅰ	1・2		2	
日本近代文学演習Ⅱ	1・2		2	
修士論文演習Ⅰ	2	2		
修士論文演習Ⅱ	2	2		

人間文化学専攻

科 目 名	開設 年次	単 位 数		履 修 方 法
		必修	選択	
総合セミナー I	1	2		<p>総合セミナー I・II 計 4 単位、修士論文演習 I・II 計 4 単位及び人間基礎論演習、歴史文化論演習、社会文化論演習のうち専門領域とする演習 I・II 計 4 単位、合計 12 単位を修得すること。</p> <p>その他の選択科目から任意に 20 単位以上を修得し、合計で 32 単位以上を修得すること。選択科目 20 単位のうち 8 単位までは他専攻の特殊講義及び特殊研究から履修することができる。</p> <p>研究指導を受けて修士論文を作成し、論文審査及び最終試験に合格すること。</p>
総合セミナー II	1	2		
人間論特殊講義 I	1・2		2	
人間論特殊講義 II	1・2		2	
心理学特殊講義 I	1・2		2	
心理学特殊講義 II	1・2		2	
美術文化史論特殊講義 I	1・2		2	
美術文化史論特殊講義 II	1・2		2	
社会歴史論特殊講義 I	1・2		2	
社会歴史論特殊講義 II	1・2		2	
現代社会論特殊講義 I	1・2		2	
現代社会論特殊講義 II	1・2		2	
地域文化論特殊講義 I	1・2		2	
地域文化論特殊講義 II	1・2		2	
人間基礎論演習 I	1		2	
人間基礎論演習 II	1		2	
歴史文化論演習 I	1		2	
歴史文化論演習 II	1		2	
社会文化論演習 I	1		2	
社会文化論演習 II	1		2	
修士論文演習 I	2	2		
修士論文演習 II	2	2		
特殊研究(社会言語学) I	1・2		2	
特殊研究(社会言語学) II	1・2		2	
特殊研究(史料講読) I	1・2		2	
特殊研究(史料講読) II	1・2		2	
特殊研究(ヨーロッパ政治史) I	1・2		2	
特殊研究(ヨーロッパ政治史) II	1・2		2	
特殊研究(宗教学) I	1・2		2	
特殊研究(宗教学) II	1・2		2	

## 生活文化デザイン学専攻

科 目 名	開設 年次	単 位 数		履 修 方 法
		必修	選択	
生活文化論特殊講義 I a (流通経済学)	1・2		2	生活文化論演習・生活環境論演習の内、各自の専門領域となるもの 4 単位、及び関連する特殊講義 4 単位を必修とし、計 8 単位を修得すること。 修士論文演習を計 4 単位履修すること。 また、その他の特殊講義及び特殊研究から任意に 20 単位以上、合計 32 単位以上を修得すること。その内、8 単位を上限として他専攻の特殊講義及び特殊研究から修得することができる。 研究指導を受けて修士論文を作成し、論文審査及び最終試験に合格すること。
生活文化論特殊講義 I b (流通経済学)	1・2		2	
生活文化論特殊講義 II a (家族社会学)	1・2		2	
生活文化論特殊講義 II b (家族社会学)	1・2		2	
生活文化論特殊講義 III a (住宅文化史)	1・2		2	
生活文化論特殊講義 III b (住宅文化史)	1・2		2	
生活文化論特殊講義 IV a (服飾文化史)	1・2		2	
生活文化論特殊講義 IV b (服飾文化史)	1・2		2	
生活環境論特殊講義 I a (被服科学)	1・2		2	
生活環境論特殊講義 I b (被服科学)	1・2		2	
生活環境論特殊講義 II a (住居環境学)	1・2		2	
生活環境論特殊講義 II b (住居環境学)	1・2		2	
生活環境論特殊講義 III a (建築計画学)	1・2		2	
生活環境論特殊講義 III b (建築計画学)	1・2		2	
生活環境論特殊講義 IV a (建築設計論)	1・2		2	
生活環境論特殊講義 IV b (建築設計論)	1・2		2	
生活環境論特殊講義 V a (建築材料論)	1・2		2	
生活環境論特殊講義 V b (建築材料論)	1・2		2	
特殊研究 画像情報分析基礎	1・2		2	
特殊研究 画像情報分析応用	1・2		2	
特殊研究 建築デザイン実務 a	1・2		2	
特殊研究 建築デザイン実務 b	1・2		2	
生活文化論演習 I a	1		2	
生活文化論演習 I b	1		2	
生活文化論演習 II a	1		2	
生活文化論演習 II b	1		2	
生活環境論演習 I a	1		2	
生活環境論演習 I b	1		2	

科目名	開設年次	単位数		履修方法
		必修	選択	
生活環境論演習Ⅱa	1		2	
生活環境論演習Ⅱb	1		2	
修士論文演習Ⅰ	2	2		
修士論文演習Ⅱ	2	2		

### 日本語教員科目

科目名	開設年次	単位数		履修方法
		必修	選択	
日本語教育学Ⅰ	1・2		2	
日本語教育学Ⅱ	1・2		2	
日本語教授法Ⅰ	1・2		2	
日本語教授法Ⅱ	1・2		2	
日本語教育実習	2		2	

健康栄養学研究科

健康栄養学専攻

科 目 名	開設 年次	単 位 数		履 修 方 法
		必修	選択	
病態臨床栄養学特殊講義 (基礎：傷病者の栄養アセスメント)	1		2	健康科学基礎講義 2 単位、特殊講義 3 教科 12 単位以上、選択した修士論文に関する演習 2 単位、および総合演習 2 単位、修士論文 6 単位、特別講義 2 科目 4 単位以上、合計 32 単位以上を修得すること。  養護教諭（専修免許）選択者は修得単位の中に健康教育学特殊講義 4 単位ならびに健康教育学演習 2 単位、修士論文（健康教育学）6 単位を、また、栄養教諭（専修免許）選択者は修得単位の中に食教育論特殊講義 4 単位ならびに食教育論演習 2 単位、修士論文（食教育論）6 単位を含んでいなければならない。  病態臨床栄養学を修士論文に選択する場合は、実践研究基礎実習 A（臨床栄養学）4 単位を、栄養マネジメント論選択者は実践研究基礎実習 B（栄養マネジメント論）を、給食経営管理論選択者は実践研究基礎実習 C（給食経営管理論）を、栄養教諭（専修免許）選択者は、実践研究基礎実習 D（食教育論）を、養護教諭（専修免許）選択者は、実践研究基礎実習 E（健康教育学）を選択しなければならない。ただし、現職養護教諭ならびに現職栄養教諭は実践研究基礎実習 4 単位分を特殊講義、特別講義で修得することができる。
病態臨床栄養学特殊講義 (応用：栄養管理の手法)	1		2	
病態栄養管理学特殊講義 A (基礎：循環器・呼吸器・消化器系疾患、外科疾患等)	1		2	
病態栄養管理学特殊講義 B (応用：症例検討)	1		2	
栄養生理学特殊講義 (基礎：食事摂取基準策定の科学的根拠)	1		2	
栄養生理学特殊講義 (応用：食品生理活性成分と慢性疾患予防)	1		2	
分子栄養学特殊講義 (基礎：核内受容体の機能と構造)	1		2	
分子栄養学特殊講義 (応用：糖質・脂質代謝と遺伝子発現機構)	1		2	
生体機能調節学特殊講義 (基礎：細胞の分子生物学)	1		2	
生体機能調節学特殊講義 (応用：機能分化細胞の分子機構)	1		2	
食品科学特殊講義 (基礎：食品物性の基礎理論)	1		2	
食品科学特殊講義 (応用：食品物性の応用展開－文献考察と実験)	1		2	
栄養マネジメント論特殊講義 (基礎：栄養マネジメントの概念)	1		2	
栄養マネジメント論特殊講義 (応用：アスリートの栄養マネジメント)	1		2	
給食経営管理論特殊講義 (基礎：給食施設の栄養管理と経営管理)	1		2	
給食経営管理論特殊講義 (応用：給食経営の資源とマネジメント)	1		2	
食教育論特殊講義 (基礎：食行動の理論と食教育の概念)	1		2	
食教育論特殊講義 (応用：ライフステージに対応した食教育)	1		2	

科 目 名	開設 年次	単 位 数		履 修 方 法
		必修	選択	
健康教育学特殊講義 (基礎：学校保健の歴史と国際的動向)	1		2	
健康教育学特殊講義 (応用：保健指導と保健教育のプラン)	1		2	
健康医学特殊講義 (基礎：生体器官と食事成分の関わり)	1		2	
健康医学特殊講義 (応用：生活習慣病予防と生体調節システム)	1		2	
健康心理学特殊講義 (基礎：健康行動と生活習慣)	1		2	
健康心理学特殊講義 (応用：心理測定と社会調査法)	1		2	
栄養マネジメント論演習	1		2	
食品科学演習	1		2	
病態臨床栄養学演習	1		2	
栄養生理学演習	1		2	
生体機能調節学演習	1		2	
食教育論演習	1		2	
健康教育学演習	1		2	
健康医学演習	1		2	
健康心理学演習	1		2	
給食経営管理論演習	1		2	
健康科学基礎講義	1	2		
総合演習	2	2		
栄養科学特別講義	2		2	
栄養免疫学特別講義	2		2	
栄養疫学特別講義	2		2	
学校看護学特別講義	2		2	
臨床心理学特別講義	2		2	

科 目 名	開設 年次	単 位 数	
		必修	選択
運動機能科学特別講義	2		2
実践研究基礎実習 A (臨床栄養学)	1		4
実践研究基礎実習 B (栄養マネジメント論)	1		4
実践研究基礎実習 C (給食経営管理論)	1		4
実践研究基礎実習 D (食教育論)	1		4
実践研究基礎実習 E (健康教育学)	1		4
実践研究応用実習	1~2		4
修士論文 (病態臨床栄養学)	1~2		6
修士論文 (栄養生理学)	1~2		6
修士論文 (生体機能調節学)	1~2		6
修士論文 (食教育論)	1~2		6
修士論文 (健康教育学)	1~2		6
修士論文 (健康医学)	1~2		6
修士論文 (健康心理学)	1~2		6
修士論文 (食品科学)	1~2		6
修士論文 (給食経営管理論)	1~2		6
修士論文 (栄養マネジメント論)	1~2		6

履 修 方 法

(注意) 正式なカリキュラムは入学後に大学院要覧を確認してください。



# 宮城学院女子大学

教育研究支援グループ入試センター

〒981-8557 仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目1番1号  
TEL 022-279-1311 (代表) 022-279-5837 (直通)  
FAX 022-279-5978 E-mail : nyushi@mgu.ac.jp  
<http://www.mgu.ac.jp>